

# けふばあちゃんからの手紙(6)

## — 治郎くんへ —

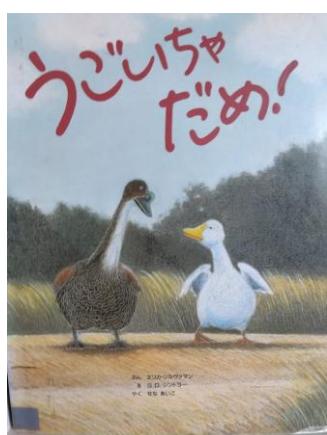
(じやりんこ文庫 乾 京子)



急に寒くなってきました。琵琶湖に次々と渡り鳥がやってきています。湖北野鳥センターの冬の三大人気者、コハクチョウ・オオヒシクイ・オオワシが揃ったと報じていました。けふばあちゃんも10月末行って、オオヒシクイとコハクチョウは見てきました。その時は、オオワシのおばあさんは、まだ来ていませんでした。

マガモ・オナガガモ・カンムリカツブリ・ヒドリガモ・キンクロハジロ・オオバンなど膳所公園や琵琶湖博物館のあたりや、琵琶湖岸のあちこちでたくさんの水鳥がゆったりと羽を休めている姿をよく見かけます。琵琶湖に冬到来ですね。

いつだったか？新刊で買った絵本、『うごいちやだめ！』という絵本をしばしば文庫の時に読んでいたことがあります。治郎君、覚えていますか？



アヒルさんとガチョウさんが、「わたしの方がおよのがじょうず」「ぼくの方がはやい」「いや、わたしのほうが…」「いやいや、ぼくのほうが…」と、ついに「うごいたら まけ」きょうそうをしましようよ。うごいちやだめなの。しゃべっても いけないの。はねいっぽん もぞもぞさせちゃ だめ。これにかかったほうが、ほんものの、ひとりきりの チャンピオンの なかの チャンピオン、ってのはどう？」

で、ハチが来ても、ウサギがぴょんぴょんしても、カラスにつつかれても、風に吹き飛ばされても動かない。とうとう、キツネに袋に入れられて、鍋に放り込まれそうになって……

チャンピオンの中のチャンピオンは だれだったのでしょ？

思い出したかな？

さて、そんなある日、一郎君、治郎君とひろこちゃん姉妹が文庫にちょっと早くやってきて、おやつにミルクと手作りケーキを食べていた時のこと。

(ここから日誌より)

ひろこちゃんの妹ののんびりふみちゃんだけ食べ終わらない。

そこで、ひろこちゃんの提案でこんなゲームが始まりました。

「ねえ、ふみちゃんが終わるまで、『うごいちゃ だめ』よ。おばちゃんたちもだよ。」

「ねえねえ、しんぞうはうごいているよ。息もしちゃだめ？」

「息はどうぞ、しんぞうも うごかしてください。でも、からだは うごいちゃだめなの。おばちゃんは きつねさんだから うごけるの。いい せいの！！」

一郎君は、おじそさまに なってしまう。治郎君もおじぞうさま。ほんとうに かわいいおじそさま。

そこへ 一郎君治郎君のおかあさんが 入ってこられて、あたまを なでなで、

「わあ、おじぞうさま！おがませてもらいましょ。なむなむなむ……。」

後でやってきた子どもたちが、風さんの役をやったり、カラスになったり、うごいちゃだめの4人は、ひっくり返っても そのまんま。『うごいちゃ だめ』が絵本から飛び出して、子どもたちの世界に溶け込んだ時間でした。



そして、この「うごいちゃ だめ」ごつごは、数年にわたって文庫でしばらく続いたのでした。



この写真は、治郎くんが、じやりんこ文庫にくるようになったクリスマス会の写真です。どこにいるか分かりますか？

1歳か2歳、そんな頃でした。お母さんが大好きで、おとなしくて優しい、そんな治郎君。治郎君が幼稚園の時、妹のマコちゃんが生まれて、お兄ちゃんになりました。お腹の大きい時のお母さん、そしてまだ首の座らない妹のマコちゃんを抱っこ紐にくるんで、治郎君のお手々をつないで、

毎日毎日、坂道を下っていく治郎君とお母さんをよく見かけました。幼稚園の方針で、「歩いて登園」が規則だったそうです。それこそ、雨の日も雪の日も。（えらいなあ、おかあさんすごい！！）って、けふばあちゃんは、みていました。「困ったらいつでも言ってね」でも、そんな日は一度もありませんでした。もつとも、そんな登園の毎日も楽しい語らいのひとときだったのかもしれませんね。

日誌を広げて読んでいると、ほとんどの文庫の日に一郎くん、治郎くん、マコちゃんの名前がのっています。（おかあさんのお仕事再開まで）治郎君のご近所さんの姉弟と一緒に来て、ロウを溶かしてアルミで型を作って、新しい蝋燭を作ったり、ひろこちゃん姉妹とおはなしおばちゃんのストーリーテリングを楽しみに待っていたり、そんなのんびりしたじやりんこ文庫も、4年、5年と経つうちに、毎回20人、3

0人という日が普通になってきて、しかも、元気のいい男兄弟たちが何組もいて、にぎやかで、時には喧嘩も始まるという日もありました。そんな時も、余り動ぜず小さい子(特に妹のマコちゃん)の面倒をみたり、気の合うお友達と一緒に本を読んだり、積み木や工作をして遊んでいました。

クリスマス会では、「さんびきのやぎのがらがらどん」のナレーターをしたこともありました。紙芝居や手品、人形劇、腹話術もあったね。覚えているかな?何が楽しかったかな?



『さんびきのやぎのがらがらどん』の絵本を読む治郎君



腹話術のお人形とおばちゃんが手品をしてくれて、でもなぜか大笑い  
じやりんこ文庫10周年のお祝いを自治会館借りて、人形劇や紙芝居もしてもらったね。



夏の遠足(万博公園)や春の遠足(相模川上流へ)



恒例の春の遠足は、相模川上流へ。  
竜が丘から池の里、住宅街を通り抜け  
ると 田んぼが、見えてきて、側の水  
路にオタマジャクシをみつけたり、  
サワガニをみつけたり、そのうち右手  
に用水池がみえてくると山道に入る。  
道々ネーチャーゲームのビンゴゲ  
ームやカモフラージュというゲーム  
をしながら相模川源流のお不動さ  
んで昼食。ここで動物あてゲーム。

治郎くんは、この動物あてゲーム好きだったなあ。雨の日のじ  
やりんこ文庫の日には、「おばちゃん、どうぶつあてゲームしよう」

って、言ってたんだよ。フフ、覚えていることあったかな? ではまたね。お元気でね。